

農大だより

発行日：平成27年12月25日
 発行：岐阜県農業大学校
 可児市坂戸938
 Tel:0574-62-1226
 Fax:0574-62-1227

◇目次◇

- プロジェクト学習の成果を報告
 オーストラリアに行ってきました
 自分の夢を大いに語る
 オープンキャンパスに多数の学生さんの参加を頂きました
 プロジェクト紹介
 春里トピックス
- ～80周年協賛イベント～
 - 「農業で夢再発見研修」



<写真：プロジェクト発表する西部さん>



<写真：熱心に発表を聞く学生達>

プロジェクト学習の成果を報告

2学年生が、プロジェクト学習の進捗状況等を報告する「プロジェクト学習中間検討会」を、9月10～11日に開催しました。

一人一人が栽培方法や飼育管理技術の改善等の課題を決めて、1学年の途中から1年余りに渡り取り組んできたプロジェクトの成果や途中経過が報告されました。今後学生達は、今回の中間検討会で指摘のあった点等を踏まえ、プロジェクト学習を取りまとめた「卒論」を作成していきます。

今回の検討会は、1月に大阪で開催される東海・近畿ブロック研究発表会の代表選考も兼ねており、野菜・果樹学科の西部知佳さんが代表に選ばれました。

オーストラリアに行ってきました

2 学年生が1 1月1 2日～2 1日の10日間、オーストラリアへ派遣学習に行ってきました。今年は、学生2 4名と引率の先生2 名が参加しました。

ほとんどの学生が海外旅行は初体験で、視察先やホームステイ先では、緊張の連続だったようです。天候にも恵まれオーストラリアの雄大な自然を満喫するとともに、日本の何百倍もの大規模な農業経営の一端を体験する等、充実した研修になりました。

言葉が上手くつながらない中、そこは持ち前の農大根性、身振り手振りや、笑顔で何とか意志疎通を行い、アレキサンダー農業大学校での学生との交流や、農家でのフォームステイ等を無事に済ませて日本に帰国しました。



<写真:アボガト農園を視察する学生達>



<写真:アレキサンダー農業大学校での乗馬体験>

自分の夢を大いに語る



<写真:意見発表する清水君>

1 学年生が、農業への想いや将来ビジョン等を発表する「校内意見発表会」を12月1 1日に開催しました。

両親の跡を継いで自営就農を目指す者、法人等での雇用就農を目指す者等、将来の進路は色々ですが、多くの学生が将来の農業経営の夢や、自分が理想と考える農業生産等について意見を述べました。

今回の発表会は、1月に大阪で開催される東海・近畿ブロック意見発表会の代表選考も兼ねており、「畜産を背負っていく人間になる～Hida beef top of Japan～」と題して発表した、畜産学科の清水大地くんが代表に選ばれました。

オープンキャンパス(一日体験入学・学校見学会)に 多数の学生さんの参加を頂きました

本年7月25～29日、8月23～26日の2回に渡り開催した、オープンキャンパスには、一日体験入学の部に48名、学校見学会の部に28名の、合計延べ76名の多数の高校生の方に参加頂きました。



<写真:培養土のポット詰作業の体験>

一日体験入学では、午前中に校内施設や寮、実習ほ場の紹介と説明を行った後、午後からは指導教官や在校生の指導のもと、希望するコースに分かれ、野菜・果樹の管理作業や乳牛の飼育管理作業等の実習を体験しました。



<写真:実習ほ場で説明を聞く高校生>



プロジェクト紹介



イチゴのポット栽培と電熱線の利用

表紙のページで紹介した西部 知佳さんのプロジェクト課題は、「イチゴのポット栽培と電熱線の利用」です。

農大では過去の先輩卒業生が、イチゴのポット栽培技術の検討を続けてきました。ポット栽培技術は、従来の高設栽培に比べ培養槽への土づめや定植作業がかなり省力でき、今後の新しい栽培法として期待されています。しかし、夜間の培地温の低下による収量の低下が課題でした。

そこで、電熱線を利用し直接クラウン部分を局部加温する事で、この課題の解決が出来ないかを検討したのが、彼女のプロジェクト課題です。

クラウン部分が20℃になるよう局部加温する事で、収穫開始時期が早まり年内収量が増加することから、単価の高い時期に販売でき、収入の増加が期待されることが分かりました。

今後は、さらに加温がイチゴの株の生育に及ぼす影響や、電熱線加温のコストを分析し、卒業論文としてまとめていく予定です。



<写真:西部さん>

春里トピックス

～80周年協賛イベント～ 記念品贈呈式・農大祭開催

本年（平成26年度）は、農業大学校創設80年目の節目の年に当たります。

これを記念し、農大のOB会である土生会からの記念品の贈呈式が11月2日に行われ、土生会会長の梅田氏から、浅野校長に環境整備倉庫が贈呈されました。

また、贈呈式に続き、80周年に協賛した農大祭が、例年よりも農産物の販売やイベント内容を充実して盛大に開催されました。

当日はあいにくの雨模様で、校舎前の駐車場で開催を予定していた農産物の直売や出し物等すべてを、急遽体育館の中で開催する事になりましたが、雨のなか多数のお客さんに来校して頂き、盛大に開催する事ができました。



<写真:土生会会長から校長への目録贈呈>

「農業で夢再発見研修」

本校では、岐阜県内で本格的に農業を始めたい方を対象とした「農業で夢再発見研修」を、平成16年から開始し、本年で11年目となります。

1回4カ月間の講座を、年2回開催しており、例年、第1回を4月中旬～8月中旬頃、第2回を9月上旬～翌1月上旬頃に開催します。

研修は、講義（座学）と実習（作業）が半々で、実際に種まきから収穫、販売まで一貫して学ぶことができます。

平成27年度の仔細な実施計画はまだ未定ですが、研修生の募集は、研修開始の1カ月ほど前から始めます。

意欲のある新規就農希望者の応募をお待ちしております。興味のある方はホームページを見て頂くか、本校（下記連絡先）までお問い合わせください。

連絡先：岐阜県農業大学校 教務課（研修担当：高木）
可児市坂戸938 Tel:0574-62-1226
Fax :0574-62-1227

編集後記

4月に入学してきた1年生も、早いものでもう1年が過ぎようとしています。入学したての頃は自信無さそうに行っていた実習作業も、最近は自信と責任をもって自ら行う姿が、頼もしく感じられるこの頃です。

一方、2年生は卒業まで、残すところあと2カ月余となりました。自分の夢の実現に向け、残された学生生活を精一杯頑張って、充実した学生生活を過ごして欲しいと思います。